「平泉」吉報心待ち

世界遺産登録

町役場、漂う緊張感

県教委　携帯などで情報収集

パリで開かれている国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会で「平泉の文化遺産」の審査が行われる予定とされていた24日、悲願の「登録」に向け全力を傾けてきた地元平泉町や県教委の担当者は「今や遅し」と吉報を待った。【本記1面】

パリからの世界遺産登録の吉報を待ちわびる斎藤清寿教育次長ら＝24日午後9時10分、平泉町役場

平泉町役場では同日深夜、滝山秀樹副町長らが、パリ入りしている菅原正義町長からの連絡を待った。斎藤清寿教育次長は「早く登録決定してほしい。不安はあまりないとはいえ、吉報を耳にするまでは気を抜けない」と緊張感を漂わせた。

国際記念物遺跡会議（イコモス）は先月7日「平泉」について「登録」を勧告した。世界遺産委員会で勧告が覆るケースはないとされる。

登録決定となれば、町は町役場正面玄関でくす玉を割り、庁舎に懸垂幕を掲げる。町民には防災行政無線などで知らせ、各種団体にも電話連絡することにしており、迅速な対応のためには吉報が入るタイミングが鍵を握る。

24日夜には「審査は25日にずれ込みそう」と情報が入り、職員は日程調整の検討に追われた。

県庁10階の県教委生涯学習文化課では24日、世界遺産担当の宮昌隆特命課長ら5人が午後5時から待機。パリの委員会に出席している職員と携帯電話メールなどで頻繁にやりとりし、情報収集しながら待ちわびた。

現地の状況から同日中に「平泉」が審査される可能性は低いと判断し、午後10時すぎにいったん態勢を解消。25日に大願成就を持ち越すことになり、宮特命課長は「緊張するが、ここまで来たら焦っても仕方ない。より良い決議を期待している」と淡々と語った。

津波悲劇に終止符を

宮古・玉沢さん　あす市慰霊祭で追悼の言葉

両親が犠牲　募る無念

祖父も78年前父母を失う

自宅の米穀店の跡で、親戚が供えた花束を見つめる玉沢邦彦さん＝宮古市田老

東日本大震災の宮古市合同慰霊祭は26日午前10時から同市小山田の市総合体育館で営まれる。遺族代表で追悼の言葉を述べる同市田老の会社員玉沢邦彦さん(42)は、津波で両親を亡くした。78年前の昭和三陸大津波に両親を奪われた祖父と、くしくも同じ境遇に。時を超え繰り返された悲劇に募る無念さを言葉に表し「二度と津波で犠牲を出してはいけない」と天国の父母らに誓うつもりだ。

「全てが流されてしまいました」。国道45号に面した自宅の米穀店跡。玉沢さんは、伯父夫婦が供えた花束をぼんやりと見つめた。

父で店主の福男さん(70)はきちょうめんな性格。店の前の掃除なしには一日が始まらない。米穀店の3代目として婿入りして45年。家長の使命感か、避難が遅れた。

母幹子さん(69)と共に車の中から見つかったのは震災から18日後。玉沢さんは市消防団第28分団員として捜索を続けながら覚悟はしていた。同分団長の菓子店経営田中和七さん(57)は「福男さんは信頼される地元のリーダー。ご家族の落胆はどれほどか」と悼む。

「おやじはだらしないのが嫌い。地震で散乱した店内を片付けていたのかな。おふくろはそのおやじをいつものように待っていたかも…」と玉沢さん。普段と変わらなかった3月11日の朝の光景を思い出すのがつらい。

愛娘の有紗ちゃん(4)と紗香ちゃん(2)はかわいい盛り。「これから孫とゆっくり過ごしてほしかった」と唇をかむ。

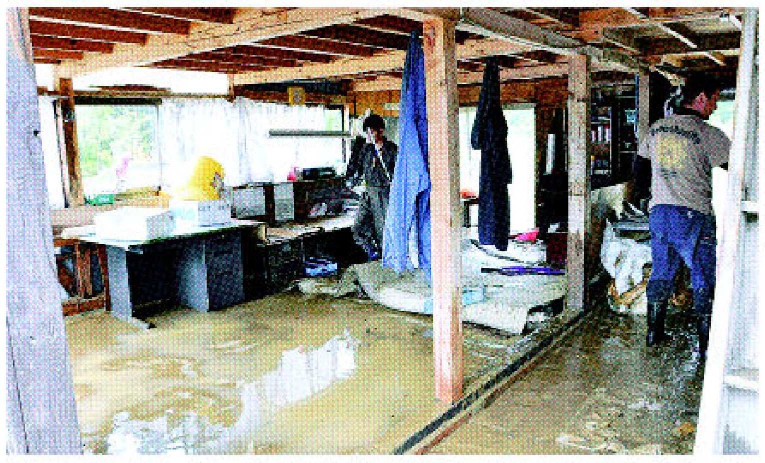
田老地区で911人の犠牲者を出した1933（昭和8）年3月3日の昭和三陸大津波で、当時20歳だった祖父惣平さんが両親を失った。同地区で201人（6月23日現在）の死者・行方不明者が出た今回は孫の自分が同じ境遇となった。

絶対に風化させない—。悲しみを語り継ぐことこそ供養と信じる。

西和賀で床上浸水

大雨、交通機関に乱れ

県内



川の水が流れ込み、浸水した作業小屋の片付けに追われる住民＝24日午後1時50分、西和賀町沢内若畑

発達した梅雨前線の影響で、県内は23日夜から24日朝にかけ全域で大雨となった。西和賀町などで住宅が浸水、秋田新幹線が終日運休したほか道路の通行止めも相次いだ。一関市では北上川が遊水地にあふれた。東日本大震災で地盤が緩んでおり、引き続き土砂災害などの危険がある。

同日午前10時40分までの24時間雨量は西和賀町沢内で226・5㍉と6月観測史上最高を記録。県と盛岡地方気象台は24日、盛岡、宮古、西和賀など一時最大14市町村を土砂災害警戒対象地域にした。

県総合防災室や県警などによると、西和賀町の住宅4棟が床上浸水、遠野市などの計13棟が床下浸水した。

西和賀町では土砂崩れが起きたため1人が自主避難したほか、沢の増水で取り残された男性(63)が消防に救助された。一関市狐禅寺の北上川は24日夕、氾濫注意水位の7㍍に達し遊水地にあふれた。注意水位を超えたのは2009年7月以来。

鉄道は秋田新幹線、JR北上線が終日運休するなど計約1万3千人に影響した。県道は5路線が全面通行止めとなり、花巻市では県道の路肩が崩れた。東北電力岩手支店によると北上、宮古両市で一時最大1176戸が停電した。

西和賀町沢内では川があふれて住宅地に流れ込み、住民は排水作業に追われた。田畑も冠水し、花き農家の吉田茂子さん(61)は「リンドウ畑が海のようになった」と花への影響を心配した。

盛岡地方気象台によると、25日は全域で晴れ、午後から曇る見込み。

関東は酷暑　熊谷（埼玉）39.8度

6月の最高　20年ぶり更新

東北付近にかかる梅雨前線に向かって南から暖気が流入した影響で24日、日本列島は関東を中心に猛烈な暑さ。気象庁によると、埼玉県熊谷市で午後2時過ぎに気温39・8度を観測。国内の6月の観測史上最高記録を20年ぶりに更新した。

これまでの最高は、1991年6月27日に静岡市で観測された38・3度。

24日の国内最高気温　ベスト10

	観測地点	最高気温
1	埼玉県熊谷市	39.8度
2	埼玉県鳩山町	39.4度
3	群馬県館林市	39.3度
4	埼玉県寄居町	39.2度
5	群馬県高崎市	39.0度
6	栃木県小山市	38.5度
7	栃木県佐野市	38.4度
8	埼玉県秩父市 群馬県前橋市	38.3度
10	群馬県伊勢崎市	38.2度

39度以上となった地点が埼玉、群馬両県で計5地点など、静岡の記録を超えた観測点が7地点に達した。

夏の電力不足が懸念される中、列島を襲った酷暑。気象庁は熱中症に注意するよう呼び掛けた。

全国53地点で「猛暑日」を記録。前橋市38・3度、宇都宮市37・5度、甲府市36・8度、松山市35・6度、大分市35・3度など、21都府県の計65地点でそれぞれの地点での6月観測史上最高（タイ記録含む）だった。

原因として同庁は、暖気の流入のほか①関東内陸は今年初の猛暑日となった22日以降、地表付近の空気が高温を保った②前線がかかった東北—北陸より南で梅雨の晴れ間が広がり強い日射③山越えの熱風が吹き下ろすフェーン現象の発生—を挙げている。

財務相らに献金の会社社長らを逮捕

脱税容疑で東京地検

情報処理サービス会社「ソフトウエア興業」（東京）の関連会社が法人税約1億1千万円を脱税したとして、東京地検特捜部は24日、法人税法違反容疑で関連会社の実質経営者のソフト社社長、丸山三郎容疑者(64)ら4人を逮捕した。

ソフト社をめぐっては、野田佳彦財務相をはじめ、与野党の複数の国会議員側に献金していたことなどが判明している。

関連会社は不動産管理業「ソフトウエア興業設備」（東京）。ほかに逮捕されたのは、この関連会社の元役員鈴木一夫(55)、ソフト社役員原子誠一(46)、千葉県内の建設会社元役員大石敏(63)の各容疑者。

拾得金庫に計6億6600万円

県警　9割は持ち主に返還

東日本大震災で本県沿岸部の事業所や住宅から流失した金庫が、5月末現在で約2200個拾得され、金庫内にあった現金は約6億6600万円に上ることが24日分かった。県警はこのうち約5億9700万円を返還済みで、持ち主の調査などをさらに進めている。

県警会計課によると、業者に委託するなどして、被災地で拾得された金庫のほとんどを開けた。金庫内の通帳や書類などから約2200個のうち、約1600個は持ち主が分かり、既に約1300個分を返還した。

現金で見ると、約5億9700万円を返還済み。約6800万円は持ち主が判明しており、まだ所有を特定できないのは約100万円という。

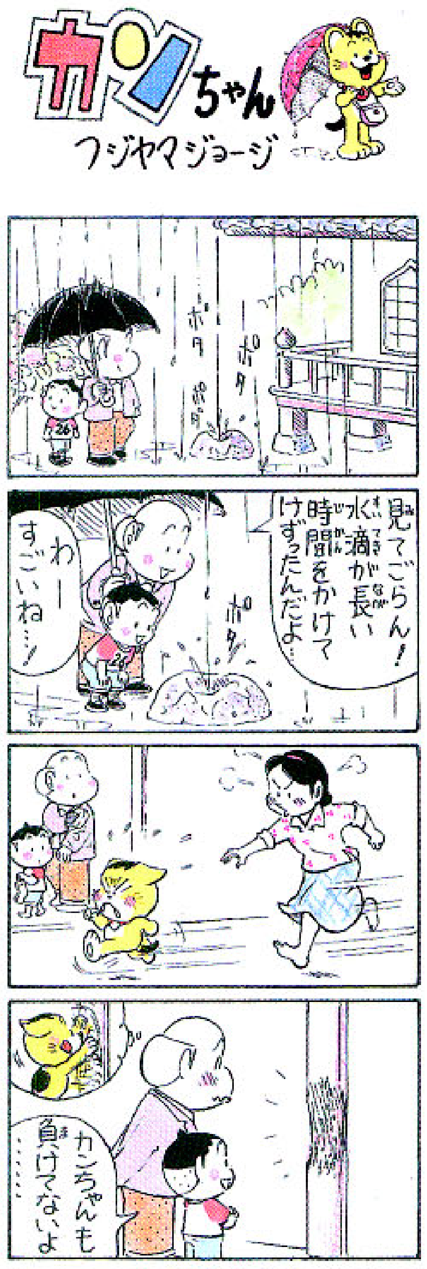
同課の佐々木雅夫次長は「調査を続け、一日も早く所有者に返還したい」としている。

自宅アパートで男性刺殺される

沖縄・直前に訪問者

24日午前10時半ごろ、沖縄県沖縄市与儀のアパートで、無職上地繁光さん(55)が腹部を数カ所刺されて倒れているのを、同居の父親(82)が見つけた。上地さんは病院に運ばれたが間もなく死亡、沖縄県警は殺人事件として沖縄署に捜査本部を設置した。直前に上地さん宅を訪問した人物の行方を追っている。

県警によると、上地さんは5階建てアパートの2階にある自宅で妻、子供や両親らと計7人暮らし。事件当時、自宅には上地さんと父親がいた。父親の県警への説明では、午前10時すぎ、部屋のチャイムが鳴り、玄関先で上地さんが応対した。


カンちゃん
フジヤマジョージ
ポタ
ポタ
ポタ
見てごらん！水滴が長い時間をかけてけずったんだよ
わーすごいね…！
ポタ
カンちゃんも負けてないよ……

ニュースファイル

◆滝沢などで停電　24日午後1時50分ごろ、滝沢村滝沢地区で最大1769戸が停電し同4時7分までに復旧した。クレーン付き作業車が高圧線に接触し断線した。

同日午前0時半ごろには、盛岡市玉山区と岩泉町釜津田地区の最大236戸が停電し、同2時18分までに復旧した。原因は調査中。

23日午後10時半ごろは花巻市上根子地区などで最大76戸が停電、24日午前0時44分までに復旧した。ヘビが高圧線に接触し、漏電した。（東北電力岩手支店調べ）

金田　正氏（かねた・まさし＝元岩崎新田小校長）23日午後3時1分、老衰のため北上市内の病院で死去、86歳。北上市出身。自宅は北上市相去町相去76。火葬は25日午後1時から同市北工業団地のしみず斎園、葬儀は28日午前11時から同市大通りの葬祭会館八重葬で。喪主は長男修一（しゅういち）氏。甫嶺小校長も務めた。

佐藤　タキノさん（さとう・たきの＝紫波町最高齢者）23日午前10時33分、肺炎のため矢巾町内の病院で死去、104歳。紫波町出身。自宅は紫波町升沢字久保11の2。火葬は25日午前11時から紫波町星山の紫波斎苑かたくりの丘、葬儀は27日午後1時半から同町桜町のシンセラホール紫波で。喪主は長男栄一（えいいち）氏。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。